

## 富山・桜町遺跡

所在地	富山県小矢部市西中野字鷺場
調査期間	一九八一年（昭56）七月～一〇月
発掘機関	小矢部市教育委員会
調査担当者	伊藤隆三・安念幹倫
遺跡の種類	水路跡
遺跡の時代	江戸時代中期
遺跡及び木簡出土遺構の概要	遺跡は市域中央部を北流する小矢部川左岸、およびこれに西方より合流する子撫川右岸の低段丘上にあり、六〇万m <sup>2</sup> におよぶ広大な面積をしめる。縄文から奈良にいたる各時代、および中・近世の遺物が採集されるが、その中心は奈良時代にある。

この遺跡を東西に縦断して、国道八号線小矢部バイパス建設が予定されており、これに先立つて建設省から

の委託事業として、一九八〇年（昭五五）より発掘調査を継続している。木簡は一九八一年（昭五六）に実施した発掘調査によつて確認された、江戸時代中期の水路跡から発見された。この水路は幅七m、深さ〇・八mを測り、調査区を南北に横断する。ほぼ小矢部川に添つており、このまま北流し子撫川に合流するものと思われる。ここから、該期の陶磁器をはじめ多量の木製品が出土した。下駄、櫛、桶、曲物、箸、漆器、独楽などがあり、これに三〇点余りの木簡が含まれる。

一八世紀後半の当地（今石動）は加賀前田藩の統治下である。今石動周辺は、古来より軍事、交通の要地とされるところであるが、この当時は、参勤交代の際の宿泊地、あるいは米の集散地としての役割りを担つていた。

### 8 木簡の釈文・内容

以下の釈文は、富山大学人文学部（現京都大学文学部）鎌田元一氏および、奈良国立文化財研究所鬼頭清明氏によるものである。

(1) 「□新□〔次郎カ〕」

〔佐カ〕

(2) 「。御露地口」

「。御露地口」

84×(21)×4 011

57×17×3 011

1982年出土の木簡

- (3) 「。三文」  
「。〔富カ〕村」  
与兵衛  
96×25×8 011
  - (4) 「。□十文 取」  
「。□」  
〔暁朝〕  
〔口カ〕  
(12) × □ □ □  
〔人カ〕川〔はカ〕  
〔久カ〕衛門」  
56×17×2 022
  - (5) 「。○□」  
〔口カ〕  
103×25×5 011
  - (6) 「。一四文△田川与兵衛」  
〔小口〕  
〔相兵衛〕  
134×23×7 011
  - (7) 「。旧本之内」  
〔口カ〕  
100×26×5 011
  - (8) 「。○□与左衛門」  
〔口カ〕  
166×34×7 011
  - (9) 「。貳升一入兵衛」  
〔合カ〕〔初カ〕  
体三巾〔口カ〕  
〔酒カ〕〔出カ〕  
越〔民カ〕〔出カ〕  
183×39×5 011
  - (10) 「。今九」  
〔西〕  
(13) × □ 步二尺〔前カ〕〔角カ〕持□×  
〔安カ〕永三年歳正月改□×  
(172)×18×4 081
  - (11) 「大瀧村」  
〔人カ〕〔はカ〕  
〔久カ〕衛門」  
(102)×37×5 019
- 出土した木簡は荷札あるいは付札として使用されたと思われる、矩形乃至短冊型のものが最も多い。このほか容器(曲物)蓋などに記されたものがあり、また削肩一点も含まれる。
- 内容では、地名、人名および、山号、寺名を記したもののが比較的多く、ことに地名、寺名などでは現地を比定できるものが少くない。なお、紀年を有するものが一点あり、安永三年(一七七四)の記載がある。
- 9 関係文献
- 小矢部市教育委員会「桜町遺跡(古苗代・鷺場地区)」(小矢部市埋蔵文化財調査報告書第九冊 一九八一年)
- (伊藤隆三)